

6 まちなか再生を推進する 「公民共創」の仕組み

公民共創のまちづくり

将来にわたって「訪れたい」「暮らしたい」と思われるまちになるためには、まちづくりの仕組みを変えていく必要があります。

従来の「行政が公共空間を整え、市民や事業者などの民間は各自の敷地内で活動する」という線引きをしたままでは、集積した多様な機能をまちづくりに活かすことや、官民の空間を一体的に活用することはできず、多様化する人々のニーズに応えることが難しくなっています。

そこで重要になるのが、空間や立場の垣根を越え、実際にまちに住み、働き、関わる方々と行政がお互いを活かし合う「公民共創」という考え方です。公共空間と民間敷地をつなぎ、お互いの強みを活かし合うことで、まち全体に利便性と豊かな体験を広げていくことができます。

このため、民間と行政がパートナーとして共に歩むための具体的な仕組みを示します。

	これまでのまちづくり	公民共創のまちづくり
空間の扱い	 それぞれの場所が はっきりと区別されている	 公共空間と民間の敷地に つながりを持たせる
公民 の関係性	 行政と民間がそれぞれ 個別に活動	 空間や立場の垣根を越えた 「対等なパートナー」として協働
連携の状態	 個別の資源・資産に 依存し連携が生まれにくい	 民間の経営の知見を活かした 道路や公園などの活用や 民間施設との連携が可能
まちづくり の姿	 多様化する人々のニーズに 十分に応えられない	 まち全体に魅力や活気を広げ 将来にわたって「住みたい」 「関わりたい」まちになる

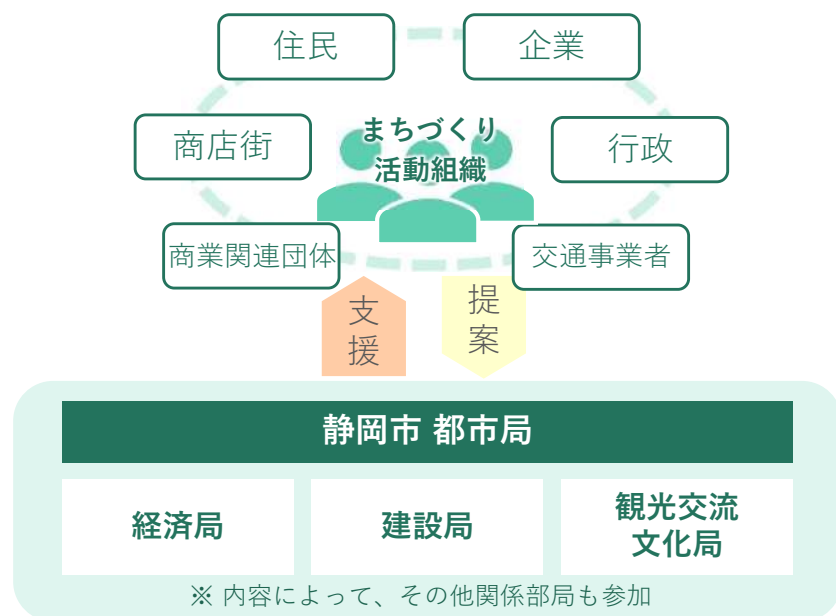
エリアマネジメントの推進

- エリアマネジメント*1とは、民間、行政等が主体となって、街の課題解決や多様な活動の向上を目指す活動です。
- 将来にわたって「訪れたい」「暮らしたい」まちであり続けるためには、行政による整備だけでなく、集積した多様な機能や官民の空間を日常的に活かすことが重要となります。
- 官民の連携による活動を推進することで、きめ細やかで持続可能なまちづくりを地域一体となって進めていきます。

■主体としてまちづくりを推進することが期待される組織・団体

- 静岡都心地区において、効果的にエリア価値を高めるためには、市民や事業者等の民間、行政などの関係者が適切な役割分担の下、まちづくりに参加・協働することが必要です。エリア別方針で示すエリアを中心に、活動母体となる実行体制を組成し、具体的な取組の検討、推進をすることが期待されます。

取組の例）（民間）清掃や防犯活動など地域の安心安全な住環境の維持向上や魅力ある店舗の誘致、店舗サービスと連携した公共空間活用の提案
（行政）まちづくり団体の組成および公共空間活用の規制緩和などの支援、仕組みづくりなど



組織・体制イメージ

<事例>



IKEBUKURO LIVING LOOP（東京都豊島区）

池袋東口エリアを中心に、リビングのように居心地の良いまちなかを目指す“まちなかりビング”プロジェクト

*1エリアマネジメント

地域住民や事業者が主体となり、まちの価値を高めるために行う様々な活動（清掃、イベント開催、ルール作りなど）

■まちなかを愛着を持てる「居場所」へと転換

- 道路や公園といった「空間」を利活用することにより、人々が「居心地が良い」「また来たい」と感じる、愛着の持てる「居場所」へと転換していくことで、より多くの人を惹きつけ、魅力のあるまちなかとなることが期待されます。エリアの価値を高めるエリアマネジメント^{*1}活動と相互に連携することで、以下のような相乗効果が期待されます。

1. エリアの価値を見える化する

公園や道路に一休みできるベンチを置くなど、無理のない小さな取組からはじめ、エリアの魅力や変化を誰もが実感できる形で示すことで、エリアマネジメント^{*1}活動への関心と参加意欲を高める

2. まちづくりの担い手を発掘する

社会実験やワークショップを通じて、これまでまちづくりと接点がなかった人たちとの関わり代をつくることで、将来的にエリアマネジメント^{*1}を担う人材の育成につながる

3. 収益事業の可能性を探る

公共空間を活用したイベントやカフェ運営また広告事業などを試行的に行うことで、将来のエリアマネジメント^{*1}の自主財源確保につながる事業モデルを構築するためのデータの収集やノウハウの蓄積につながる

- 新しい空間の整備、既存の空間のさらなる利活用等、様々な場面において、人々に愛され、つかわれる場が一つでも多く生まれるよう、その取組を推進・支援していきます。

<事例>

**アオバリビング（青葉シンボルロード実証実験）**

静岡都心を人中心の空間へと移り変え、居心地がよく歩きたくなるまちなかを創出することを目的として実施

**あそべるとよたプロジェクト（愛知県豊田市）**

豊田市駅周辺にある開けた空間を活動やくつろぎの場として開放し、とよたに愛着を持てる場所として使いこなしていく取組

^{*1}エリアマネジメント

地域住民や事業者が主体となり、まちの価値を高めるために行う様々な活動（清掃、イベント開催、ルール作りなど）

■まちづくりへの市民の関与

・まちづくりに関わることは、一人での取組から仲間や組織との活動まで多様にあります。以下にその例を掲載しました。

静岡市は、これらの取り組みに対して様々な支援を行っていきます。まちの景色を一緒に変えていきましょう。

いつでも誰でも

日常の延長でできる、ちょっとした
まちの美化や情報発信、まちの活用



A 「ついで」に清掃
犬の散歩や出勤ついで
に清掃をする



B 植物の水やりサポーター
街路樹や花壇へ水やり
をする



C 推しスポット SNS投稿
地元の好きな店・場所を
SNSに投稿する



D 軒先ガーデニング
自宅や店舗前に、プラン
ターを置く



E 朝活・夕活
気の合う仲間とラジオ
体操やヨガ、飲み会を
行う



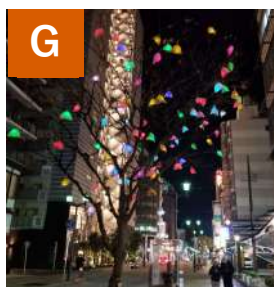
F 青空読書会
青空の下でみんなで読書
を楽しむ



I キッチンカーの誘致・マ
ルシェの開催
公共空間を活用し、まち
を活性化する



J 静岡呉服町名店街
まちづくり協定
2025
街並みルールの作成
まちの魅力を向上させる
ための独自ルールをつく
る



G 季節の装飾
七夕やクリスマスなどに
あわせて統一感のある飾
りつけを行う



H まちあるき
地域を巡り、まちある
きマップをつくり、発
信する



K エリアマネジメント*1組
織の立ち上げ
継続的な活動を担う組織
や仕組みをつくる



L 空き家・空き店舗のリノ
ベーション
低未利用地をシェアオフィ
スやカフェなどの人が集ま
る場所へと再生する

*1エリアマネジメント

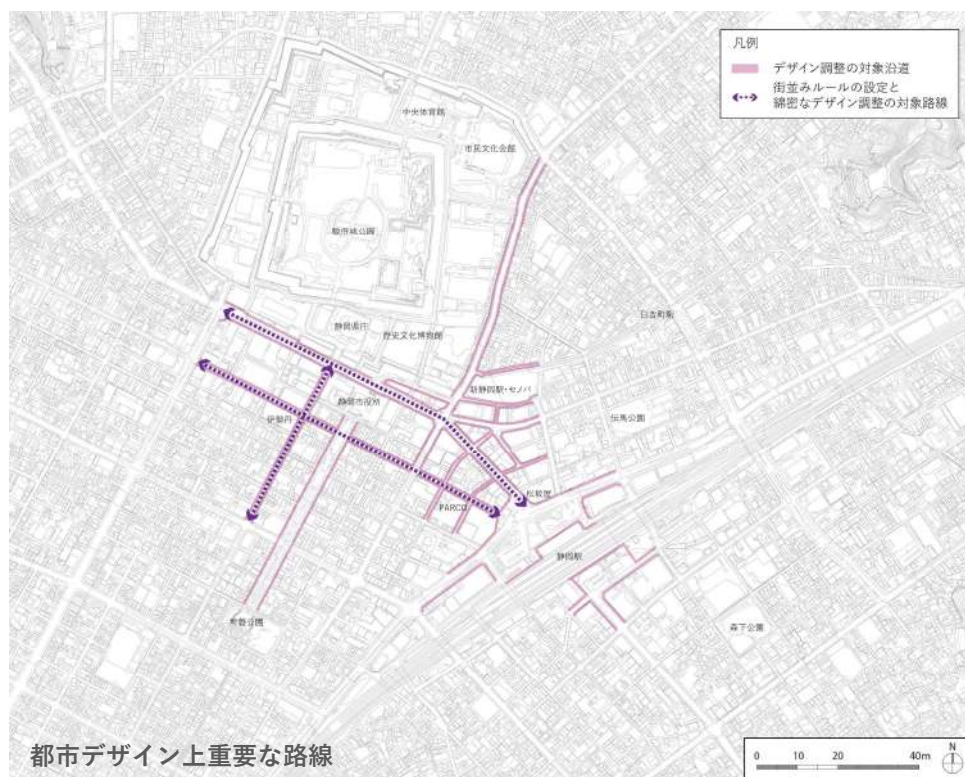
地域住民や事業者が主体となり、まちの価値を高めるために行う様々な活動（清掃、イベント開催、ルール作りなど）

デザイン調整^{*1}の推進

- デザイン調整^{*1}とは、まちなかの再生に影響の大きい建築物や工作物、道路・公園などの公共施設の整備にあたり、まちづくりの方向性に沿った機能やデザインとなることを目指し、周囲の景観と調和し、機能性と美しさを兼ね備え、歴史的・文化的背景に配慮したものとなるよう、事業者や行政及び専門家等が協議し、調整をする取組です。
- 協議調整にあたっては、設計案に対して、多様な分野の専門家が関係者と対等な立場で意見を交わし、単なる個別開発に終わらせず、まち全体として望ましい都市機能の誘導や心地よい空間の創出を図ります。
- 今後、デザイン調整を円滑に行うための体制づくりを進めていきます。

■重要な路線と対象となる施設

以下に重要な路線および専門家を交えたデザイン調整^{*1}等の実施対象となる施設の一例を示します。具体的な対象施設については、今後検討を進めます。



都市デザイン上重要な路線

※「4-11. 都市の顔となる街並み形成に向けた建築物のデザイン調整」から抜粋



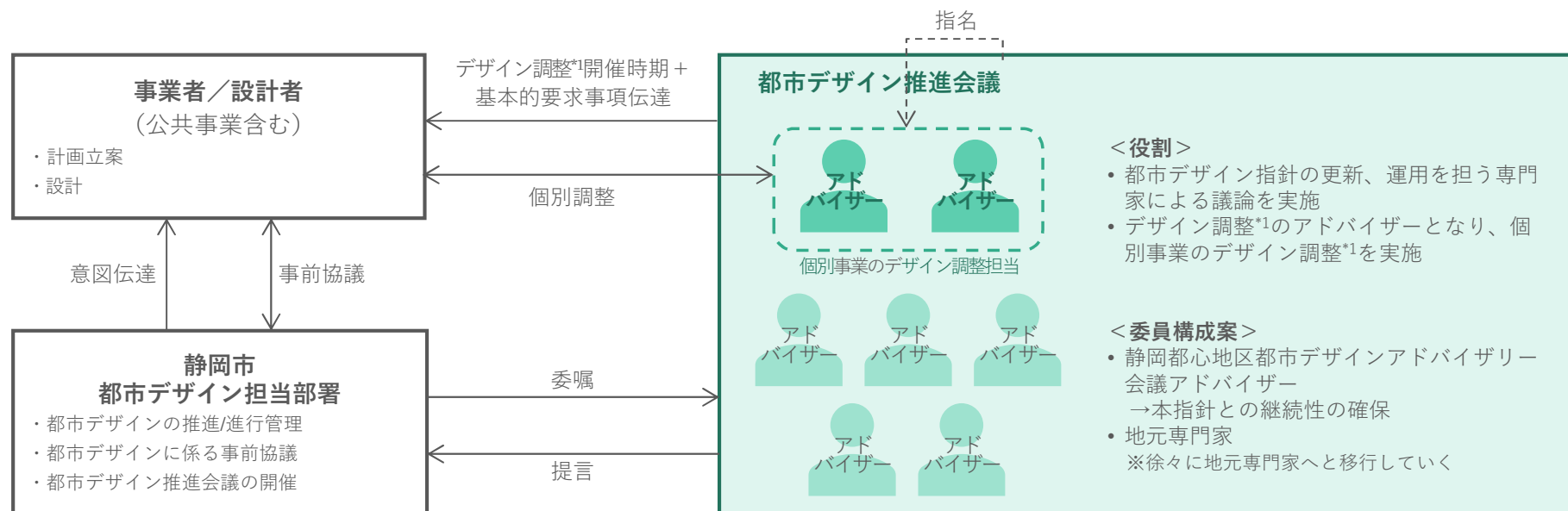
対象となる施設のイメージ

^{*1}デザイン調整

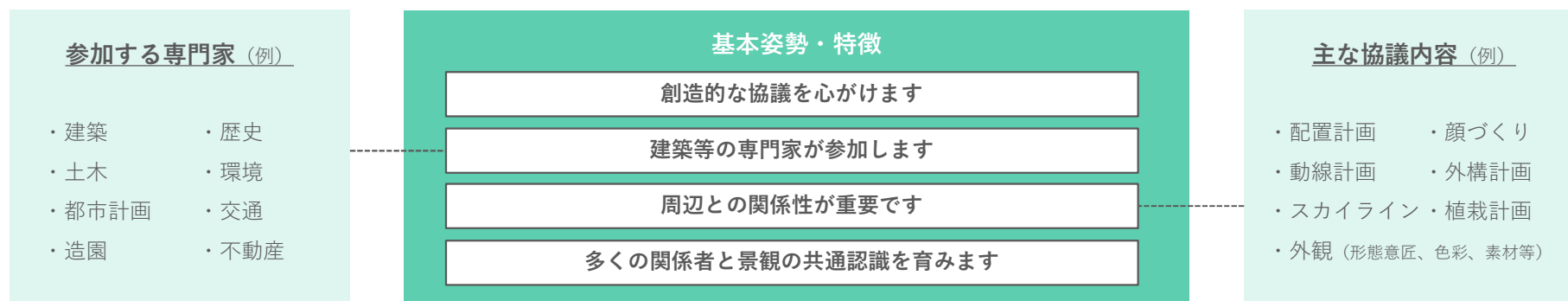
建物のデザインなどが、まちの景観や方針と合うように、専門家と話し合い、整えていくこと

■ 専門家を交えたデザイン調整^{*1}の実施

- 建築物等のデザイン調整^{*1}のため、設計案に対して、多様な分野の専門家が事業者や設計者と対等な立場で意見を交わし、より良いデザインを共に創り上げていくための「前向きな話し合い（対話）」の場を設けます。本指針に基づく調整を円滑かつ効果的に進めるため、事業者・設計者、静岡市、そして専門家が連携した体制での運営を想定しています。
- デザイン調整^{*1}では、以下の点に留意して対話を進めます。柔軟な対応ができるよう、計画の初期段階から協議を行い、設計の節目（基本計画、基本設計、実施設計の各段階を目安）ごとに、複数回の開催を想定しています。



デザイン調整の体制イメージ



デザイン調整^{*1}実施上の留意点

※法的拘束力を必ずしも必要としません

^{*1}デザイン調整

建物のデザインなどが、まちの景観や方針と合うように、専門家と話し合い、整えていくこと